

姫路獨協大学 発達障害支援者講座 第1回 のびのびセミナー

発達障害の子どもたち
子どもたちを支援する人
子どもたちの友達・家族
みんなの“のびのび”を応援する



私たちは、
そんなセミナーを開催したいと考えています

特別講演：宮田広善先生(姫路市総合福祉通園センター ルネス花北 所長)

“療育再考 ～療育は「医療モデル」から「生活モデル」へ～”

日時：2006年10月14日(土)・15日(日)

場所：学校法人 獨協学園 姫路獨協大学

(兵庫県姫路市上大野7-2-1)

受講料：無料

定員：200名

対象：発達障害児の医療保健福祉、療育、教育・保育等

に従事されている方

(のびのびセミナーは、入門者向けセミナーです)

主催：姫路獨協大学 共催：姫路市 後援：兵庫県教育委員会、姫路市教育委員会

学齡児童生徒の約1%は、知的障害や肢体不自由などのハンディを有すると言われています。また近年、通常学級児童の約6.3%は、軽度発達障害児(LD・ADHD・アスペルガー症候群)であるとも言われており、発達障害は非常に身近な存在となりつつあります。発達障害を持つ子どもたち一人ひとりの生活上の問題は多岐にわたり、その対応に苦慮することも少なくありません。しかしこの子どもたちは、“困った子”ではなく“困っている子”なのです。子どもたちの困りごとをサポートし、子どもたちの個性、可能性を“のびのび”と育む包括的な支援が必要であると考えています。

今回、姫路獨協大学において発達障害児(者)支援を志す作業療法士・言語聴覚士・看護師(保健師)、さらに姫路市総合福祉通園センター宮田広善先生をお招きし、多職種による多面的な支援を考え、連携と協業の中に「子ども理解とかかわりのきっかけを作る」セミナーを開催することにしました。多くの療育関係者、教育保育関係者のご参加をお待ちしています。

きっと、新鮮な気づきと出会いの場になると思います。

第1回 のびのびセミナー プログラム

特別講演

“療育再考 ～療育は「医療モデル」から「生活モデル」へ～”

(14日 10:00～12:00)

特別講師 宮田広善(姫路市総合福祉通園センター ルネス花北所長)

リハビリテーションの目標が「ADLからQOLへ」と変化し、国際生活機能分類(ICF)が提起される時代にあって、これからの療育はどうあるべきか。

ICFの時代の療育には、「障害を軽減・治癒させる支援」ではなく「障害があっても地域で健やかに育ち地域で豊かに暮らしていくための支援」が求められる。

今回のセミナーでは、育児支援から始まり成人期の暮らしを準備できる生活モデルの療育を提案する。

特別講師 略歴

1976年3月 神戸大学医学部医学科卒業
1976年7月 神戸大学医学部小児科学教室入局、神戸大学医学部附属病院研修医
1977年4月 兵庫県立淡路病院小児科、加古川市民病院小児科
1984年9月 加古川市立つじ療育園(肢体不自由児通園施設)
1987年10月 姫路市 民生局福祉部「(仮称)姫路市立総合療育センター」計画担当
1990年4月 姫路市総合福祉通園センター・ルネス花北 所長になり、現在に至る。



- ・全国肢体不自由児通園施設連絡協議会 会長
- ・障害児(者)地域療育等支援事業全国連絡協議会 会長
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育特別委員会 委員(2004～2005年度)

“遊びで育む感覚運動”

(14日 12:50~14:20)

講師 太田篤志(姫路獨協大学 医療保健学部 作業療法学科教授)

遊びや道具は子どもたちにとって楽しい時間をもたらしてくれるものです。そしてその楽しみは、子どもたちの体や心の発達を促していきます。感覚統合療法の観点から感覚運動の発達とそれを促す遊びのヒントをお伝えします。



“ことば じゃない ことば?”

(14日 14:35~16:05)

講師 服部律子(姫路獨協大学 医療保健学部 言語聴覚療法学科教授)

言葉がうまくつかえない子どもたちと接していると、つい話しことばに目がいってしまうことはありませんか?人は話しことば以外にも、目や体や声で多くの「ことば」を発信しています。そんな「ことば」を発見するヒントを一緒に考えたいと思います。子どもたちとの毎日を少し変えてみませんか。



“子どもの健康体験から生活を整えよう”

(14日 16:20~17:50)

講師 森田恵子(姫路獨協大学 医療保健学部 こども保健学科助教授)

子どもは、一人ひとりさまざまな違いがありながらも、子どもとして共通する思いや願いをもって生きているのではないのでしょうか?子どもが子どもらしく、その子らしく生きること、そして「健幸」な生活を創り出すケアのヒントをお話します。



“「もっと遊ぼうよ!」～重症心身障害児からのメッセージ～”

(15日 9:30~11:00)

講師 村井弘育(姫路獨協大学 医療保健学部 作業療法学科教授)

新生児医療の発達で、多くのリスクの高い子どもたちの生命が救われています。しかし、その一方で身体、知的共に重い障害を持って生まれてくる子どもたちもいます。重度な障害を持つ子どもたちは、その見てわかる障害の重さから、どう関わっていけば良いのか戸惑う事が数多いと思います。今回、その障害の重い子どもさんたちとどう関われば良いのか、そのヒントについてお話します。



“「こんなことに困っている」～自閉症に映る環境～”

(15日 11:15~12:45)

講師 小西紀一(姫路獨協大学 医療保健学部 作業療法学科教授就任予定)

自閉症児の「振る舞い」が、典型発達児とは異なったものであるように捉えられ、「問題行動」として取り上げられることはよくあることです。しかし、自閉症児であっても典型発達児であっても、脳に届けられた情報に基づいて精一杯適応しようとする努力においてはまったく違いはないと考えられます。自閉症児の脳に反映される環境を想像し、効果的な対応を工夫する手掛かりになるヒントを紹介させていただきます。



第1回 のびのびセミナー スケジュール

2006年10月14日(土曜日)

時間	講師	内容
10:00~12:00	特別講師 宮田広善	療育再考 ~療育は「医療モデル」から「生活モデル」へ~
12:50~14:20	太田 篤志	遊びで育む感覚運動
14:35~16:05	服部 律子	ことば じゃない ことば
16:20~17:50	森田 恵子	子どもの健康体験から生活を整えよう

2006年10月15日(日曜日)

9:30~11:00	村井 弘育	もっと遊ぼうよ! ~重症心身障害児からのメッセージ~
11:15~12:45	小西 紀一	こんなことに困っている ~自閉症に映る環境~

1. のびのびセミナー申し込み方法

・往復はがきにて、お申し込み下さい。
折り返し、セミナー受講決定通知を郵送します。

●往信面

セミナー参加申し込み・氏名・勤務先名・勤務先住所・
電話番号・職種・交通手段(1. 公共交通機関(バス等)
2. 車利用 3. その他())の別を明記して下さい。

●返信面

返信先住所・氏名を明記して下さい。

2. 申し込み締め切り:2006年9月30日(土)

先着順に受付の上、定員になり次第締め切ります。

3. 申し込み・お問い合わせ先

〒670-8524 兵庫県姫路市上大野7-2-1
姫路獨協大学 総務課
TEL 079-223-2211(代)

遊び・活動を通して
楽しい生活をサポート
作業療法学科

保育・療育・看護の
専門技術を兼ね備えた
こども保健学科

姫路獨協大学は、発達障害支援に一生懸命取り組みます

楽しく繰り返して
いきいきした動きを援助
理学療法学科

コミュニケーションの支援を
通して一人ひとりの毎日を
サポート
言語聴覚療法学科